

栄 養 部

1 スタッフ

部長（教授）（兼）	大河原 晋 （腎臓内科）	糖尿病病態栄養専門管理栄養士 1名 腎臓病病態栄養専門管理栄養士 1名
栄養室長	村越 美穂	3) 日本臨床栄養代謝学会
栄養室長補佐	椎名美知子	栄養サポートチーム専門療法士 5名
主任管理栄養士	宮原摩耶子	臨床栄養代謝専門療法士 専門領域がん 1名
管理栄養士	猪野瀬 渚	4) 日本栄養士会
	中原 忍	静脈経腸栄養（TNT-D）管理栄養士
	長嶺智重子	4名
	山口 美和	5) 日本糖尿病療養指導士認定機構
	井上 奈々	日本糖尿病療養指導士 6名
	宮下 智香	6) 日本腎臓病協会
	黒田 峰加	腎臓病療養指導士 2名
	柳下 三奈	7) 埼玉県知事
委託職員（パート含む）		埼玉県肝炎コーディネーター 2名
管理栄養士	9名	
栄養士	11名	
調理師	6名	
補助員	53名	

2 専門資格

認定施設

- 1) 日本病態栄養学会
栄養管理・NST実施施設
- 2) 日本臨床栄養代謝学会
NST稼動施設認定

認定資格

- 1) 日本病態栄養学会
病態栄養専門管理栄養士 7名
- 2) 日本病態栄養学会・日本栄養士会
がん病態栄養専門管理栄養士 2名
がん専門管理栄養士研修指導師 2名

3 理念・基本方針・目標の改定

自治医科大学附属さいたま医療センター 栄養部

○理念

栄養と食事による治療の支援

○基本方針

1. 患者さんによりそう心を大切にします
2. 衛生に配慮した、安全で質の高い食事を提供します
3. 管理栄養士の責務と使命により、患者さんの栄養管理に努めます
4. 自ら研鑽するとともに、治療に貢献する管理栄養士を育成します

2023年4月1日 制定

○栄養部の目標

- ・栄養の専門職として自ら行動し、多職種と連携しよう
- ・栄養部関係職員の信頼関係を保ち協働しよう

4 業務実績

（1）患者給食の提供

主治医が発行した食事箋に基づき、センター管理栄養士が患者個々の献立を作成している。給食委託会社のスタッフは、大量調理施設衛生管理マニュアル（厚生労働省2017年6月16日最終改正）に則り、食材調

達、調理、盛り付け、配膳、下膳を担っている。2023年は前年を上回る食品の値上げにより、1日1人当902円（税抜）の費用を要した。

締切時間後の食種変更等により1患者に2食目を提供した費用、および締切時間後や提供後の食止による費用は、年間89.9万円であった。

約束食事箋について、2023年は次の通り見直し、栄養療法の拡充を図った。

- 1) 化学療法に伴う悪心や、食思不振時の食事、さくら食の新設
- 2) 終末期などにおけるQOL維持の栄養サポートとして、患者さんが食べられる状態の時に好みの食品（かき氷やアイスクリーム）を提供する、あんず食の新設

食種は成人用に約100種、小児用に約20種を用意している。大分類による食事提供数を示す（表1）。

表1 2023年 食種別食数 (食)

食種（大分類）	累計	1日当
<成人>		
基本食	153,577	420.8
高蛋白食	857	2.3
エネルギー調整食	42,938	117.6
エネルギー蛋白コントロール食	31,902	87.4
七分菜食	14,459	39.6
五分菜食	10,595	29.0
三分菜食	5,668	15.5
易消化食	1,715	4.7
脂肪制限食	4,776	13.1
プレカット食	13,971	38.3
ハーフ食	27,756	76.0
さくら食	2,563	7.0
低刺激食	607	1.7
低残渣食	3,581	9.8

術後食	10,143	27.8
5回食	2,927	8.0
経口開始食	481	1.3
流動食	6,348	17.4
嚥下食	13,859	38.0
待ち食	1,478	4.0
無菌食	1,582	4.3
注腸食	548	1.5
じょく婦食	5,539	15.2
貧血食	1,028	2.8
妊娠高血圧食	439	1.2
特別指示食	7,496	20.5
経管栄養（食品）	32,825	89.9
栄養補助食品	1,843	5.0
<小児>		
学童基本食	3,025	8.3
幼児基本食 （+調乳を含む）	8,234	22.6
離乳基本食 （+調乳を含む）	1,575	4.3
流動食<小児> （+調乳を含む）	17	0.0
軟菜食<小児> （+調乳を含む）	934	2.6
特別指示食<小児> （+調乳を含む）	791	2.2
調乳	18,535	50.8
総計	434,612	1,190.7
特別食加算	193,054	
あんず食	156	0.4
選択食	873	—
調乳数（本）	60,911	166.9

（2）栄養管理

入院診療計画書の「特別な栄養管理の必要性」が「有」の患者に、入院時栄養管理計画書を作成している。2023年は入院患者の98%に作成し、栄養管理に繋げた。

特定集中治療室における栄養管理に対する加算、栄養情報提供に対する加算の状況は下記の通りである。

早期栄養介入管理加算	4,184件
栄養情報提供加算	1,215件

(3) 栄養食事指導

2023年も集団栄養食事指導は中止。全て個人栄養食事指導で実施した。

医師・看護師・管理栄養士による糖尿病透析予防指導においても栄養食事指導を実施している。

2023年の栄養食事指導数を示す(表2)。

表2 2023年 栄養食事指導数

指導項目	件数
<個人栄養食事指導>	
糖尿病	1,065
糖尿病腎症	157
透析	94
腎臓疾患	1,352
高度肥満症	84
高血圧症	233
心臓疾患	117
高尿酸血症	9
脂質異常症	81
胃腸疾患	407
肝疾患	247
胆のう疾患	11
膵疾患	37
貧血	8
がん	408
摂食・嚥下機能低下	22
低栄養	14
小児アレルギー	1
入院準備外来	145
外来化学療法	25
循環器(病棟実施)	1,670
6B病棟実施	2
その他	12
総計	6,201
糖尿病透析予防指導	392

(4) NST (Nutrition Support Team)

医師、歯科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、言語聴覚士、歯科衛生士が回診・カンファレンスを実施している。2023年の介入は183症例664件であった。

(5) 実習・研修生の受け入れ

病態栄養学会NST臨床研修受入施設として4施設4名を受け入れた。

管理栄養士養成施設である5大学より23名の実習を受け入れた。

5 研究・学会活動等

学会発表

- 1) 宮原 摩耶子：外来糖尿病患者の食事療法に対する準備状況の実態調査。第26回日本病態栄養学会年次学術集会，2023年1月13日，京都
- 2) 宮原 摩耶子：動脈硬化関連疾患栄養教育用簡易食品群別摂取頻度調査票－糖尿病版(DM-P1M1)を用いた新規栄養教育プログラムの効果。第66回日本糖尿病学会 年次学術集会，2023年5月12日，鹿児島市
- 3) 宮原 摩耶子：シンポジウム 持続可能なライフ・キャリアプランをみんなで考えよう～2024年に迫る医療者の働き方改革～(糖尿病医療者・研究者のダイバーシティをpromoteする委員会)管理栄養士による糖尿病療養支援－今後の在り方と課題－。第66回日本糖尿病学会 年次学術集会，2023年5月13日，鹿児島市

講演

- 1) 村越 美穂：多職種で考える褥瘡対策

管理栄養士の立場から、多職種で考える褥瘡対策セミナーin岩槻、2023年3月1日、Web

- 2) 村越 美穂：薬剤師も知っておこう！栄養サポートのキホン、第1回多職種連携カンファランス～がん患者の栄養管理について～、2023年4月18日、さいたま市
- 3) 宮原 摩耶子：第2回多職種連携カンファランス～注意が必要な臨床背景をもつ患者の栄養管理について～ 糖尿病患者への栄養サポート、2023年9月12日、さいたま市
- 4) 猪野瀬 渚：第2回多職種連携カンファランス～注意が必要な臨床背景をもつ患者の栄養管理について～ 慢性腎臓病患者への栄養サポート、2023年9月12日、さいたま市

6 2024年の事業計画

(1) 患者給食の提供

- 1) 衛生管理・品質管理・精度管理・温度管理の安定化を目指しながら、効率化を図る。
- 2) 患者給食厨房の拡張工事が進められている。移転後も滞りなく食事提供ができるよう体制を整える。
- 3) 日本食品標準成分表2020年版（八訂）の使用を開始したことを契機に、順次約束食事箋の見直しを図っている。患者の高齢化に伴う軟菜食の必要性、特別食加算に繋がる食種の在り方を検討する。

(2) 栄養管理

- 1) 令和6年度の診療報酬改定における入

院基本料の見直しにより、栄養管理体制の基準が変更となった。標準的な栄養スクリーニングを経た上でのGLIM基準による栄養状態の評価と栄養管理計画、退院時を含む定期的な評価の手順を作成し実施する。

- 2) 令和6年度診療報酬改定において栄養に関する項目の追加がある。管理栄養士の体制整備および人材育成に努める。
- 3) 各々が病棟担当として管理栄養士の専門性を発揮する。医師の働き方改革が開始となり、タスクシフティングあるいはタスクシェアリングとなる業務については、管理栄養士として実施するよう努め、栄養の観点から治療を支援する。
- 4) 栄養食事指導、特に入院の栄養食事指導件数を維持・増加するよう努める。